

# 課題の分析と方針の打ち出しに向けて②

## ～全国学力・学習状況調査自校採点の活用(国語編)～

全国調査の結果が7月中に返却される予定ですが、自校採点で見られた課題を早期に解消することが必要です。全国学力・学習状況調査の解説資料を参考に、学校全体で組織的・継続的な解消に取り組みましょう。



### 解決に向けた打ち出し〈例〉

岡山県マスコット「うらっち」

国語A **5** の正答率が県平均(29.2%)より**5ポイント低い**。

正答の条件を解説資料で確認する。

この問題では、  
右の(一)～(四)の  
条件を満たすこと

児童一人一人の誤答の状況を答案用紙等で確認する。

「正しい文は選んでいるが、『反省点は』と『用具の手入れをあまりしませんでした』とが照応していない」児童が多かった。

仮説

主語と述語との関係に注意しながら、文を正しく書き直すことができない。

学習指導要領における領域・内容 **解説資料による**  
**第3学年及び第4学年** 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
(1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項  
(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

### 〈つまづき解消に必要な段階の明確化〉

■児童の発達段階に応じた、手立てを講じる。

複数の短文の中から、  
間違った文を選ぶ  
練習を取り入れる。

間違っている理由を、  
言葉や文で説明する  
活動を取り入れる。

間違った文を、主語  
と述語の関係に注意  
して書き直す。

気づく

分かる

できる

### 〈計画のポイント〉

- 帯時間や家庭学習を利用して問題に取り組ませ、継続・徹底できるようにする。  
\* 問題作成は、全職員に呼びかけて協力してもらう。
- 複数の学年で取り組むに当たっては、中学年では「気づく」「分かる」に、高学年では「できる」に重点を置くなどの工夫をする。

### 〈具体的な取組例〉

- 第3・4学年には、帰りの会で間違った短文を選ぶ問題に取り組ませ、その場で児童にどこがおかしいのかを発表させ共有する。
- 第5・6学年には、第3・4学年の取組に加え、正しい文に書き直すことを宿題とする。

上記のような取組に加えて、教室や廊下に問題を掲示し、ポイント制を導入するなど、楽しみながら学習できる仕掛けをつくることもできるね。



小学校 国語A **5**

(問)

一つ選んで書きましょう。また、  
(四) 選んだ文を正しく書き直しましょう。

――部と――部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から  
(一) 部はそのままにして、  
(二) 部はそのままにして、  
(三) 部はそのままにして、文の意味が変わらないように

【出題の趣旨】  
文の中における主語と述語との関係などに注意して、  
文を正しく書くことができるかどうかをみる。

### 中学校でも!!

中学校 国語A **8** 四2

自校採点 正答率 **33.2%**

主語を明らかにした上で、文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことができるかどうかをみる問題が出ています。

Research(把握)

Plan(計画)